

# プロレタリア

発行所・新世界通信 発行人・小川春夫  
東京都足立区梅島2-38-11-303  
TEL 03(3849)4953 FAX 03(3849)4938  
郵便振替 00160-4-174947  
E-mail ga3129@i.bekkoame.ne.jp  
URL http://www.bekkoame.ne.jp/i/ga3129

## 展望なき埋立で安倍は破滅へ

### 決戦へ向かう「辺野古」3・16官邸前、3・22土砂投入許さず

3月16日、沖縄・那覇の県民大会との同時行動として、東京では「辺野古新基地建設反対」3・16首相官邸前アクション」が行われ、安倍政権は2月沖縄県民投票の結果を無視するな！新たな土砂投入はやめろ！と訴えた。

この行動は、官邸前行動としては久々に大規模に勝ち取られ、官邸前から一歩下の歩道までを埋め尽くす約2500名の結集となった。主催は、「止めよう！辺野古埋立」国会包囲実行委員会、戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委と、辺野古の海を土砂で埋めるな！首都圏連絡会(埋めるな！連)が協賛。

最初に、主催の辺野古国会包囲案から木村辰彦さんが挨拶、「安倍政権は、軟弱地盤の存在と設計変更申請の必要をようやく認められた。玉城知事

### 3・16 沖縄県民大会

3月16日、那覇市・新都心公園で、「土砂投入を許さない！ジュゴン・サンゴを守り、辺野古新基地建設断念を求めよう」3・16県民大会が、辺野古新基地を造らせないオール沖縄会議の主催で1万人余が参加した。出張で欠席の玉城知

### 3・25 土砂投入許さず

3月22日、首都圏の諸団体がひろく参加する「埋めるな！連」によって、新たな土砂投入阻止の連続行動が展開された。3月22日には品川で、埋立て工事元請けである大林組への抗議行動が展開された。

### 3・24 首都圏大集会・池袋デモ

3月24日、都内の東池袋中央公園で、「沖縄の声を聞け 止めろ！新たな土砂投入 首都圏大集会」が開催された。450名が参加し、池袋駅周辺をデモ行進し、「辺野古の海を土砂で埋めるな！」県民投票を無視するな！とアピールし

## 新・天皇元号はいらない！

天皇主権者扱いの即位式に対峙し、5・1主権在民メーデーを推進しよう

天皇元号「令和」強制を許さず、5・1天皇代替わりによる天皇制強化に断固反対しよう。4月1日、新天皇元号を「令和」とすることを、前代代替り時のように官房長官が発表するだけでなく、勝手な意味付けを行いつつ安倍首相が直接、国民に宣伝した。これは、政権浮揚のための浅はかな天皇利用であり、違憲行為である。天皇元号を法制化して

明仁が退位し、5月1日に新天皇徳仁の即位儀式、また「三種の神器」継承儀式が行なわれる。前者の国事行為とされる即位儀式で、高御座に天皇が座り、三権の長などが平伏するやり方は、天皇を主権者扱いする暴挙である。また天皇家の宗教儀式にすぎない後者を、政府が公的儀式であるかのように描き出すのは、露骨な政教分離原則違反である。

「本土」の私たちが自己の問題としていかに闘っていくのか、闘いはその意味でも正念場の局面に入っていく。集会参加者は決意を新たに、池袋の繁華街をデモ行進した。(M通信員)

秋には、大警察と、各国の来客を呼んでの即位大典が行なわれる。皇室

この集会・デモは、翌25日に政府が企図している新たなエリアへの土砂投入に反対する連続行動の一環として、3月22日の「大林組前行動」、同日の首都圏22カ所(別野古の海を土砂で埋めるな！)とアピールし

5・3 憲法集会 午後1時 有明防災公園



▲ 新たな土砂投入やめろ！首相官邸前座り込み (B・25)

# 反戦実行委が、「沖縄・韓国民衆と連帯し 安倍政権を終わらせよう!」3・9討論会

## 安倍政権をどう攻めるか

3月9日、「戦争法廃止・安倍たおせ!反戦実行委員会」(略称・反戦実)の主催で、「沖縄・韓国民衆と連帯し安倍政権を終わらせよう!」3・9討論会が東京・文京シビックホール会議室で開かれ、会議室いっぱいの約70名が参加した。

この集会は、タイトルにあるように、安倍政権を終らせるには、「沖縄・韓国民衆と連帯し」た闘いが重要であるという点を押し出し、今春および当面の課題をもっとも鮮明にした取り組みであった。

司会の山口優さん(反戦実)が開会を宣言し、それとともに、この集会に大阪から駆けつけた釜ヶ崎日雇労働組合の三浦俊一さんを紹介した。三浦さんは、釜ヶ崎での闘いばかりか、辺野古現地にもしばしば訪れ奮闘している方だが、「土砂投入の強行以降、大阪でも辺野古への関心が高まっている。埋立て反対署名には多くの賛同を得ている。今日は、これらの運動のやり方を学ぶために参加した」と報告した。

主催者あいさつが、反戦実からの問題提起として、松平直彦さんから行なわれた。彼は、この集会の意味として、「沖縄・韓国民衆の闘いに応えて、安倍政権を終わらせる。しかし、民衆運動は安倍政権を攻めあぐねている状況。打開の道について討論していただきたい」と提案した。

続いて、3名の方から問題提起。林哲さん(リム・チョル、津田塾大名誉教授)が、激動する朝鮮半島情勢について、大仲尊さん(沖縄・一坪反戦地主会関東ブロック共同代表)が、2・24沖縄県民投票の結果を踏まえ、た辺野古新基地建設問題について、菱山南帆子さん(許すな!憲法改悪市民連絡会事務局次長)が、安倍9条改憲反対運動について、各々レジュメに沿って報告した。

3月25日の夕刻、中央官庁が集まる東京霞ヶ関で「3・25霞ヶ関デモ」が行われ、約80名が参加した。主催は、8団体呼びかけの「戦争・治安・改憲NO!総行動実行委」。

デモ起点の日比谷公園霞門で開かれた集會では、司会の大西さん(立川自衛隊監視テント村)が、天皇代替わり・トランプ5月来日・大阪G20・東京五輪と続く中で、改憲と治安強化、大軍拡の動きに反対していること、「霞ヶ関デモ」の基調を述べた。

主催者挨拶で松平さん(戦争法廃止・安倍たおせ!反戦実行委)が、「本日午後の、辺野古第2工区への土砂投入を、満腔の怒りで糾弾しよう!」の意図もなしに、ただ反対運動を黙らせるためのみの強行であり、絶対に許さない!」朝鮮半島南北で戦争を起させない動きが強まる中、米国の態度が混乱し、自衛隊が朝鮮半島に刃を向ける危険な動きとなっており、日本の運動が問われている!」と提起した。

沖繩反戦地主会関東ブロックの大仲尊さんは、「今日の土砂投入は、昨年12・14と違って、隠れるように投入した。県民投票の民意に押しされ、反発を恐れている」と指摘した。

日韓民衆連帯全国ネットワークの尾澤さんは、2月米朝首脳会談について、段階的並行的な行動を米政権側が口先のものにしたことを批判した。

集會途中、右翼街宣車が違法な暴音を立てて、意図的な妨害を開始。破防法・相対法反対

# 3・24とめよう!戦争への道「2019関西のつどい」 アベ打倒し東アジアの平和へ

3月24日、大阪市のエルシアターで、「とめよう!戦争への道 2019関西のつどい」が、約700名が参加した。主催は、大阪平和人権センター、しないさせない戦争協力関西ネット、戦争をさせない千人委員会・大阪の3団体。

集會は最初に、平人センター代表が開会挨拶を述べ、「アベ打倒・維新打倒」を訴えた(維新の策略による大阪府知事・市長クロス選挙が、4月7日投票)。

徐勝さん(ソ・スン、東アジア平和研究所)が、「朝鮮半島南北和解、協力を東アジアの平和」との演題で講演。「わが民族の運命は我々自ら決定するという民族自主の原則」(2018.4.27板門店宣言)が強調された。

また、元山仁士郎さん(辺野古)県民投票の代表)が、「辺野古県民投票の結果とこれからの闘い」との演題で講演。元山さんは、5市長に県民投票参加を求めた自身のハンストなどに触れつつ、自分としては「世代間の対話」「島々の対話」を重視したと語った。

立憲民主党、社民党の挨拶、また辺野古大阪行動、全日建関西生コンからのアピールで集會を終え、西梅田公園までデモ行進を行なった。

同代表)が、2・24沖縄県民投票の結果を踏まえ、た辺野古新基地建設問題について、菱山南帆子さん(許すな!憲法改悪市民連絡会事務局次長)が、安倍9条改憲反対運動について、各々レジュメに沿って報告した。

デモ起点の日比谷公園霞門で開かれた集會では、司会の大西さん(立川自衛隊監視テント村)が、天皇代替わり・トランプ5月来日・大阪G20・東京五輪と続く中で、改憲と治安強化、大軍拡の動きに反対していること、「霞ヶ関デモ」の基調を述べた。

主催者挨拶で松平さん(戦争法廃止・安倍たおせ!反戦実行委)が、「本日午後の、辺野古第2工区への土砂投入を、満腔の怒りで糾弾しよう!」の意図もなしに、ただ反対運動を黙らせるためのみの強行であり、絶対に許さない!」朝鮮半島南北で戦争を起させない動きが強まる中、米国の態度が混乱し、自衛隊が朝鮮半島に刃を向ける危険な動きとなっており、日本の運動が問われている!」と提起した。

沖繩反戦地主会関東ブロックの大仲尊さんは、「今日の土砂投入は、昨年12・14と違って、隠れるように投入した。県民投票の民意に押しされ、反発を恐れている」と指摘した。

日韓民衆連帯全国ネットワークの尾澤さんは、2月米朝首脳会談について、段階的並行的な行動を米政権側が口先のものにしたことを批判した。

# 新基地建設は必ず頓挫する 政府は沖縄の民意に従え! 安倍9条改憲NO!3月「19の日」国会前行動

新たな土砂投入が目論まれる3・25を前に、3月19日、「辺野古新基地建設は断念せよ!政府は沖縄の民意に従え!安倍9条改憲NO!憲法審査会を始動させるな!」3・19国会議員会館前行動」が開催され、3千名の労働者が市民が結集した。主催は、戦争させない・9条壊すな!総がかり行動実行委と安倍9条改憲NO!全国市民アクション。

この19日、玉城デニー

沖繩県知事が首相官邸を訪問、新たな海域への土砂投入中止、普天間基地の閉鎖・返還、新基地建設断念を申し入れた。デニー知事は、「ますます県民の反発は膨らむ」と警告し、中止を迫った。しかし首相は、工事強行に固執した。

これを受けて、怒りの福山真劫さん(戦争をさせない千人委)の主催者挨拶の後、立憲民主党の

有田芳生参院議員が発言した。有田議員は、「ジューゴが死んだ。沖縄防衛局の調査で3頭の生息が確認されていたが、土砂投入で餌がなくなり、海流が変り、内一頭は、2月12日にどこに行つたか分からなくなっていた。そして3月18日、今帰仁村の漁港沖で死骸が発見された。保護すべき珊瑚も、放置したまま土砂で埋めた。」「辺野古に基地を造らせない政府をつく

る!」と、政府の環境破壊を糾弾しつつ、決意を表明した。他に国会野党では、国民民主・津村啓介、共産・藤野保史の両衆院議員、社民・福島瑞穂、自由・森裕子、沖縄の風・伊波洋一ら参院議員が発言した。

情報公開請求で超軟弱地盤の存在を暴露してきた北上田毅さん(沖縄平和市民連絡会)は、「政府は、沖縄県民に少しでも譲歩すれば、辺野古は頓挫する」と考え、頑なに

なっている。焦っているのは軟弱地盤の存在だ。もはや少々の地盤改良では、基地はできない。工事は必ず頓挫する。長期的には、我々が必ず勝利する。屈することなくデニー知事を支える」と勝利の確信を表明した。

西谷修さん(安全保障関連法に反対する学者の会、立憲大)は、「安倍は、辺野古ではゴリ押ししないと政権が潰れると思っている。南西諸島では自衛隊の軍事基地建設が進んでいる。国際情勢が危機的になったとウソをついて、辺野古を要に軍基地建設を急いでいる」と指摘し、米軍の統制下で本格的な軍事行動を狙う安倍政権の目論見を暴露した。

リレートークでは、沖繩から要請行動上京中の高里鈴代・オール沖縄会議共同代表などが発言した。

共同行動の石橋さんは発言の中で、「この総行動で、右翼の介入は初め。デモ申請のとき、警察から『霞ヶ関で反天皇を言うと、右翼が突入するかも』と言われた」と報告した。

デモ出発時には、突っかかるようにする右翼が警察に制止される茶番劇が演じられた。この右翼街宣車、シートを貼って団体を隠し、車体後部に「我ら行動右翼・極左撲滅班」などと掲示している。

民主主義的諸要求を掲げる平和的デモであるのに、それに対する極右の違法な妨害を、左右両極の衝突などと描き出し、その防止と称して、集會・デモを制限せんとする動きである。この動きは、天皇代替わりで高まる。断固たる大衆的反撃が必要だ。

(東京W通信員)

最後に行動提起では、安倍9条改憲反対3千万署名の推進とともに、3・25、「土砂投入は中止せよ!辺野古新基地建設は断念せよ!」3・25集会・日本教育会館

4・19、「19の日」行動、6時半・議員会館前、5時半・憲法集會、有明防災公園・午後1時より本集會

6・7・8、朝鮮半島と日本に非核・平和の確立を!市民連帯行動。(4・24)プラレ集會。文京区民センター6時半、6・7日比谷野音で集會・デモ、6・8国際シンポ・星隆会館)以上の予定を確認した。

(4面から) 総督府参謀の沙汰書が渡された(2月18日付け)。と同時に、関東探隊のために253人を嚮導隊から差し出すように命じている。

だが、東山道総督府は、2月24日付けの、大垣詰め薩摩・長州・因州・土佐・大垣の5藩に対する命令では、「時宜ニヨリ断然厳重処置致すべし」と命じている。短期間で様変わり処置となっている。

相楽は2月23日に、下諏訪に戻る。相楽は留守中に起きた追分戦争(北信濃で活動中の嚮導隊士と信州の小諸藩・御影屋の戦争)で捕らえられた同志の釈放のために薩摩藩に嘆願書を書き上げていた。3月1日には、岩村田藩に囚われていた同志が釈放される。しかし、同日夜、下諏訪に滞陣中の東山道総督府から使者が来て、相楽に出頭命令を伝えた。出頭した相楽らは逮捕され、嚮導隊の本拠である極橋宿(下諏訪から一里余離れ)に呼び出され、全員が逮捕された。

嚮導隊幹部は初めから死刑と決まっていた。3月3日、なんらの取調もなく、相楽ら8人が死刑、三浦弥太郎以下14人が片鱗(かたびし)片鱗(かたびし)の上追放、40数人が追放となった。その3日後の6日、信州追分の刑場で、桜井常五郎ら3人が死罪(斬首)のうえ梟首、3人が片鱗(かたびし)片鱗(かたびし)の上追放となった。(つづく)

相楽三が大垣の東山道総督府に出頭したことは、2月18日のことであつた。大垣の本營には岩倉具定・具経とその参謀、伊地知正治・島津式部の率いる薩摩藩兵、板垣退助の率いる土佐藩兵、榑崎頼三らの長州藩兵、その他因州・彦根・大垣藩兵らがあつた。18日夜に軍議が開かれ、そこでは激しい論議が交わされたと思われる。しかし、総督府は厳しい態度を示しながらも、あつたかも温情をかけるかのよう

に、「其方(そのほう)に、相楽を指す)並(ならびに)同志の人数、薩州藩二委任シ候条、右藩之約束ヲ受ケ進退致(いたす)べし」とする東山道

のども)無頼(ぶらい)の徒ヲ相語合(あいかた)り(あひ)、官軍ノ名ヲ偽唱(きよか)つ、嚮導隊杯(なご)ト\*こけおどし(ヲ)以テ農商ヲ劫(おびやか)シ、追々(おおいおい)東下致(いたし)候(そう)ろ(趣(おもむき)二相聞(あいきこ)候。右等毛高松殿人数同様之儀二候間、夫々(それぞれ)取押置(とりおさ)えおき申す(まを)む(お)せ出され候(そう)ろ(事。『赤報記』『復古記』)

相楽ら8人の取調もなく、相楽ら8人が死刑、三浦弥太郎以下14人が片鱗(かたびし)片鱗(かたびし)の上追放、40数人が追放となった。その3日後の6日、信州追分の刑場で、桜井常五郎ら3人が死罪(斬首)のうえ梟首、3人が片鱗(かたびし)片鱗(かたびし)の上追放となった。(つづく)

### 3・10東電刑事裁判厳正判決を求める全国集会

# たじろがず有罪判決へ

東電刑事裁判の結審を2日後に控えた3月10日、福島原発訴訟支援団は、「東京電力福島第一原発事故刑事裁判・厳正判決を求める全国集会」を東京・専修大学神田校舎で開催し、200名超が結集した。

東電の旧経営陣を被告とするこの裁判は、福島県民そして全国からの1万4千余人々による告訴、検察庁による東電と経産省についての2度の不起訴、東電については市民の運動による検察審査会での強制起訴という経過で実現され、2017年6月に初公判、以来今日、裁判は被告人側最終弁論・結審にまで持ち込まれた。

責任を鮮明にした。河合弘之弁護士は「社会は甘くない。予見可能性があったかは、裁判官の判断。だからこそ怒りを裁判官に伝え、世論に訴えるべきだ。どちらが勝つても必ず控訴審になる。気を長くもって闘うべきだ。」もう一つの軸は、原発の廃棄だ。この裁判は、惨害賠償を求め

る闘い、脱原発の闘いなどの中核にある。闘いを発展させることを考え、原発を破壊させるべきだ」と述べ、闘いのあり方を示した。

富岡町から非難した吉川さんは、「何度も傍聴に来た。我々の思いに無関心な裁判官が判断している。彼らに分からせなければ意味がない。有罪を勝ちとつても、自分には何も返るものがない。しかし勝たないと発言した。このほか南相馬から

「被害者は、量りに掛けられ差別を受けてきた。東電は破壊者だ。しかし、それを見逃してきて、国と県も同罪だ。告訴団の一人として、東京地検に何度も駆け付け、東電に必ず責任を取らせる」と怒りを吐露した。東電に必ず責任を取らせる」と怒りを吐露した。東電に必ず責任を取らせる」と怒りを吐露した。

ら神奈川県に避難の山田さんら、総勢8名がアピールした。最後に事務局から、「厳正な判決を求める署名」4万5千筆を達成した。さらに締め切り日を4月20日まで延長し、より多くの署名を事務局に送ってほしい。

被告側最終弁論結審は、3月12日第37回公判のみに変更。3・12東京地裁前に大結集を。の二つが呼びかけられて終了した。(東京A通信員)

## 東電9・19判決へ世論攻勢を

### 3月結審 福島原発事故・東電過失責任は明確になった!

福島第一原発事故をめぐり、業務上過失致死傷罪で強制起訴された勝俣恒久元会長ら東京電力旧経営陣3人の刑事裁判が、3月12日東京地裁(水渕健一裁判長)で開かれた。

この第37回公判は、弁護側(東電側)が最終弁論を行ない、旧経営陣は、「大津波の予見可能性は認められず、過失の無いことは明らか」などと無罪を主張し、この日の内に結審した。

永淵裁判長は判決期日を9月19日に指定。裁判の勝利は、その日までの闘争の拡大に委ねられた。

被告3人の弁護側最終弁論の要旨は次の通り。①事故の予見可能性が認められないのは明らかで、3人は無罪。3・11以前にマグニチュード9

クラスの地震が東北の太平洋沖で起きたと考える予見はなかった。②仮に事前の試算に基づいて防潮堤などを設けていても、津波による浸水を防ぐことはできず、事故を回避することはできなかった。

また、裁判の最終段階で、過失責任を裏付ける山下和彦氏(当時東電原子力設備管理部ナンバー2)の供述調書が明らかになった。これを見れば、東電の犯罪は一目瞭然である。

その内容は、①長期評価は最新知見であり、長期評価を考慮するのは当然。②原発を止めることになりかねないから、原子力設備管理部内では長期評価を取り入れる方針を武黒・武藤元副社長(現在の被告人)に伝え、08年2月16日の「御前会議」でも報告し、方針は了承された。④08年3月11日の常務会でも、その方針は了承された。⑤当時10m盤を超える津波とは考えられておらず、4m盤を超える津波での機能維持のみ

を考慮、4m盤上のポンプの水密化や建屋を囲む程度なら、バックアップの最終報告に間に合うと考えていた。⑥08年5月から6月頃、東電土木調査グループの高尾誠氏らから、長期評価を取り入れると津波水位が最大15・7mになると説明された。⑦10m盤を超えない水位であれば長期評価を取り込み、対策をとる方針が維持された。⑧津波対策をしないことと決めた理由は、バックアップ最終報告時までに津波対策工事を完了する見込みがなく、原発を止められる恐れがあったこと。当時、柏崎刈羽原発の停止により収支が悪化、福島第一まで停止するとさらに悪化するため、運転停止は何とか阻止したかったことが挙げられる。⑨耐震バック

チェックは、最新の知見を取り込むことが前提、後日取り込むことは、審査委員や保安院が納得しない可能性があったため、武藤元副社長が有力な学者に根拠を示し指示した」とされている。

これらは、裁判での証言や交換されたメール等の内容とも一致している。もはや東電の過失責任は明確である。

2月26日、政府の地震調査委員会(委員長・平田直東大教授)は、日本海溝沿いの海域で、今後30年間にM(マグニチュード)7.5の大地震が起きる可能性が高いとする予測を公表した。

しかし、2011年にM9の超巨大地震が発生した岩手・茨城沖では、3・11の震源域に隣接する海域での発生は否定できないとしたものの、30年以内のM9の発生確率は0%と公表した。予測の根拠は、現時点でのデータ不足と、超巨大地震が500〜600年の間において繰り返すと仮定したことが挙げられている。今回の予測は、3・11を受けて11年11月にまとめた改定長期評価に基づいて公表されたもの。

東電刑事公判に証人として出廷した島崎邦彦東大名誉教授(地震学)は、0%予測について、詳細な理由を最悪の事態に目を背けてはいけないと指摘し、「3・11震源

域の北と南で、別の超巨大地震が発生しうること前面に出して伝えるべき」と発言した。

電力各社は、再稼働に向けた手続きの遅れや、対策費の膨張を警戒する。東北電力女川原発は、23・1mの津波を想定するが、追加対策で遅れることを恐れる。東海第二原発も、「新知見が出れば真剣に対応する」構えだが、防潮堤建設等で見込まれる対策費が3000億円にも達している。

地震調査委員会の公表内容は、政府のエネルギー政策と「原子力ムサシ」の意向が働いている。

2月28日、東海第二を運営する日本原子力発電の村松衛社長は、6市村(再稼働の際、同意を必要とする協定を結んでいる)の首長と水戸市内で面会し、再稼働方針を伝えた。面会後、東海村山田村長は、「原発が一方的に進むイメージが強い。協定に基づいて協議がされていくのか危機感を持った」と語った。

強引な再稼働への動きを抑止するためにも、東電刑事裁判での厳正判決が問われている。再稼働反対の運動と、厳正判決を求める署名の拡大などで、労働者・市民の怒りを裁判官に伝えねばならない。決定的瞬間には、国会前などに大結集して、安倍政権打倒・全原発廃炉へ立ち上がる必要がある。たじろがず、9月には有罪判決を勝ちとろう。(O)

はすぐ来ます」と指摘し、「老朽原発を更に20年延長するが、23年から再稼働しても、後13年間しか運転できない。そんな原発の安全対策に3千億、内東電からの支援が1900億円のムダ。原発1キロワットに1万円補助する(東海第二は110万キロワットだから、毎年110億円入る)新しい仕組みを、来年導入しようとしている。ぜんぶ電気料金に乗せず」と暴露した。

原発ゼロ法案について、山崎誠衆議院議員(立憲民主)が、昨年3月に提出された法案が、自公の妨害で吊るされたまま。何としても審議入りせよ」と報告した。原水爆禁止の高橋正平大使による発言が続いた。

沖繩については、外間三枝子さん(一坪反戦地主会関東ブロック)が発言。外間さんは、「さよなら原発の集会ですが、さよなら日本と私は言いたくない。応援してくれる人も大勢いるので、ほんとはそう言いたくないが、沖繩は自己決定権の実現をめざしたい」と述べつつ、新たな土砂投入阻止のための3・24東池袋公園、3・25官邸前を訴えた。

総がかり実の福山真劫さんが、安倍政権打倒の当面情勢について報告。また、14日から行なわれてきたフクシマ連帯キャラバンを、若い労働組合員らが報告した。

最後に集会アピールを採択、2手に分かれてデモ行進に出発した。反原発の他、情勢的に統一地方選・参院選勝利、辺野古埋立て許すな、の発言が多かった。

(東京W通信員)

南帆子さんの司会で、最初に鎌田慧さん(署名呼びかけ人・ルポライターの)が主催者挨拶。外間三枝子さんが冒頭、沖上太郎さん(経産省前脱原発テントひろば共同代表)が昨日の朝、病気で死去したことを報告した。追悼の言葉とともに、遺志を継いで闘い、「とにかく安倍政権を倒そう!」、原発・辺野古にみられる無責任でモラル欠如のアベ政治の一掃、これを訴えた。落合恵子さん(作家)も、呼びかけ人発言で沖上さん

を悼んだ。

フクシマからの発言では、人見やよいさん(福島原発訴訟団・フリーライター)が、「事故から8年と経つが、8年経つても事故が続いていると言わなければならない。放射能は出ていないのに、県内33カ所のモニタリングポストを撤去などしている。東電刑事裁判、9月には必ず有罪判決を」と訴えた。

また、熊本美彌子さん(避難の協同センター世話人)は、「東京へ避難して8年、日本は民主主義の国なのか、疑問が大きい。この3月末で公務員住宅を追い出される。福島県も住宅補助を停止する。(避難区域外の)避難者への見せしめだ」と批判した。

東海第二原発再稼働について、阿部功志さん(東海村議)が報告した。「今日は風が強いから110キロ、放射能

壇上にフクシマ連帯キャラバン



壇上にフクシマ連帯キャラバン

壇上にフクシマ連帯キャラバン

壇上にフクシマ連帯キャラバン

明治維新の再検討

民衆の眼からみた幕末・維新期⑦

年貢半減令取り止めなどに抵抗

堀込 純一

II 幕末・維新期の農民闘争の独自性

(2) 権力移行期の攻防と弾圧される草莽隊

(iii) 赤報隊―「偽官軍」として鎮圧される

赤報隊は、相楽三三が公卿の綾小路俊実と滋野井公寿を擁立して、1868(慶応4)年1月10日に組織されたものである。京都からあまり遠くない

目次

- はじめに
I 労働派・講座派論争の地平を越えて
II 幕末・維新期の農民闘争の独自性
(1) 農民闘争と隔絶する尊王攘夷運動
(i) 幕末開港の尊攘運動
(ii) 諸物価高騰に凶作重なり民衆の大規模決起
(iii) 薩摩藩邸を拠点に草莽隊のかく乱活動
(2) 権力移行期の攻防と弾圧される草莽隊
(i) 維新政府による旧幕府軍征討
(ii) 草莽隊の活動鎮圧と解散
(以上 587〜593号)

見ておくこととする。

相楽三三の経歴

小侍)らによって進められていた。それが、京都の公卿社会に入り込んでいた山科(やましの)たち、新選組と袂(たもと)を分かつた鈴木三樹三郎・篠原泰之進らのグループが、さらには油川練三郎を中心とする水口藩士グループが、岩倉具視の「内意」を受けて加わったのである。そして、それにまた、江戸の薩摩藩邸の焼き打ちから遁(のが)れ、京都にたどり着いた相楽三三のグループが西郷隆盛の命令を受けて参加したものである。薩摩藩は、相楽らに金100両・小銃100挺・相応の弾薬を支給して送り出した。

相楽三三の本名は小島四郎左衛門といい、1839(天保10)年に、江戸赤坂榎町に生まれて、父・兵馬は郷土身分で、もとは下総国相馬郡相木(くまぎ)新田村の豪農であった。この父の代で膨大な資産をつくり、一家は江戸に移り住むようになった。小島家の富の蓄積は、主に旗本金融である。千葉・茨城に所領をもつ旗本などに對し、金貸しを手広く行ない、財をなしたのである。郷土身分の獲得も、この財を献金したことに由来すると思われる。

上は、「官軍の御印(しるし)」としての品を下賜してほしい、というものである。建白書の主旨は、「徳川慶喜が東歸したのは必ず関東に割拠する意図があるからだ。後手をとり幕府軍に要地を塞(ふさ)がれたら、打ち破ることは困難となる。加えて戦争が長引けば、外夷(\*西洋人への蔑称)に乗ずる隙(すき)を与え、早急に出兵するように。その場合、関東はこれまで幕府の苛政が続いて来たので、民心の怨(うら)みは大きいです。そこで『幕領(の)分(の)暫時(さんじ)』の間(のあいだ)賦税(ふせい)を軽く致(いた)し候(そう)ろ(ハハ)民衆は朝廷の有難(ありがた)さに感謝(かんしゃ)の御用(ごよう)から倒幕(たうぼく)の軍(いくさ)が起(おこ)るようになり、必ずや東征の一助(いっしゆ)なるであろう(高木俊輔著『それからの志士』)もう一つの明治維新(めいし)有斐閣選書 1985年 P.5)というものである。

近江国坂田郡何々村右は此迄(こゝまで)徳川慶喜支配の処(ところ)に、此度(このたび)慶喜朝敵(けいきてい)と相成(あいに)なり候(そう)ろ(ハハ)民衆は朝廷の有難(ありがた)さに感謝(かんしゃ)の御用(ごよう)から倒幕(たうぼく)の軍(いくさ)が起(おこ)るようになり、必ずや東征の一助(いっしゆ)なるであろう(高木俊輔著『それからの志士』)もう一つの明治維新(めいし)有斐閣選書 1985年 P.5)というものである。

ある。信州通行中の相楽隊は、「官軍先鋒(せんぽう)隊」の旗を掲げていたので、これ以降は「嚮導(きやうどう)隊」と呼ぶこととする。

年貢半減令の布告

1月9日、相楽三三は綾小路・滋野井両卿の使者として、京都に向かう。その役目は、結成された赤報隊を正式に官軍の一員として認可してほしい、という嘆願である。これに対して、太政官議定・参与局は、1月11日、両卿が朝廷の決まりを犯して脱走したことは「不容易(ふたふた)なことではあるが、非常時(ひじょうじ)での奮発(ふんぱつ)は「神妙(しんめう)」であるとして、咎(とが)を免(まぬ)らせない、とした。

東への進軍の途次の1月22日、相楽らは、高松実村卿を奉じた高松隊の一隊20数人を加納宿で出迎えている。甲府城を攻略することを目指していた高松隊は、ここで

下諏訪に着いた頃の相楽隊は、総勢220、230名くらいといわれ、そのうち、人夫が150名くらいなので、隊員は70、80程度である。信州通行中の相楽隊は、「官軍先鋒(せんぽう)隊」の旗を掲げていたので、これ以降は「嚮導(きやうどう)隊」と呼ぶこととする。